

地域包括支援センター名称	実施日	参加者(関係機関等)	数	テーマ／目的	検討結果
第2育秀苑	H30.11.28	民生委員、町会・自治会、障害者サービス事業所、介護サービス事業所	25人	<p>【テーマ】 60～70代の認知症の方が地域で活躍できそうな役割を考える</p> <p>【目的】 認知症を発症したら、自分はどうなって、何を考え、どう行動するか。その後の生き方や地域・社会との関わりについて考え、共有する。</p>	<p>・地域には認知症になってもできそうなことや、活動できそうな場所が、思ったよりたくさんあることに気づいた。</p> <p>・近い将来自分にも起こりうる「認知症になったら」というイメージの種まきを行い、それぞれのイメージを共有することができた。</p>
桜台	H31.1.16	民生委員、移動スーパー事業者、介護サービス事業所	36人	<p>【テーマ】 地域の社会資源について「移動スーパーの活用」</p> <p>【目的】 「買い物に行きたいけれど行けない」方のために、移動スーパーなど社会資源の活用について、グループで話し合う。</p>	<p>・「移動スーパーの細かい仕組みが良く分かった」「今回のように1つの社会資源を深く検討するのは良かった」などの意見があった。</p> <p>・「買い物難民」と呼ばれる方の多い地域であり、移動スーパーは個別訪問となるため、顔が見える関係となり「いつもと違う様子」を発見しやすい。それらを地域包括支援センター等につなげる事で「認知症になっても安心して生活できる」地域づくりにつながる。</p>
豊玉	H31.2.22	民生委員、町会・自治会、老人クラブ、訪問支援協力員、コミュニティカフェ、介護サービス事業所、有料老人ホーム	33人	<p>【テーマ】 地域特性を活かした避難訓練</p> <p>【目的】 担当地域で活動されている関係者や各機関と地域課題の発見や情報共有を行うことで、ネットワークを構築し、地域包括ケアシステムの確立を目指す。</p>	<p>・講義と被災時の映像で参加者が我がこととして防災を意識し、その後グループワークを行ったことから活発な意見交換を行うことができた。</p> <p>・防災の意識は時間とともに薄れ、また地域の団体の防災体制にもばらつきや情報の偏りもあることから、継続して防災について考える場を持つことが必要である。</p>
練馬	H30.9.26	民生委員、町会・自治会、訪問支援協力員、介護サービス事業所	31人	<p>【テーマ】 練馬・向山地域って・・・こんな地域です。「わが町のよいところ」「これがあればもっとよくなる」</p> <p>【目的】 ・地域の介護サービス事業所や民生委員など地域の支援者と顔の見える関係づくり ・地域包括ケアシステムの推進 等</p>	<p>・グループワークでは地域包括支援センターが認識している地域の課題と住民の方の課題のすり合わせを行なうことができた。</p> <p>・アンケートにおいて、「ひとり暮らしの方がいかに地域につながるか他の地域の例も知りたい」など、参加者が地域づくりへの関心の高さが確認できた。</p>
練馬区役所	H31.2.20	民生委員、町会・自治会、老人クラブ、訪問支援協力員、認知症家族会、社会福祉協議会、介護サービス事業所	30人	<p>【テーマ】 男性のひとり暮らしの方への関わりについて</p> <p>【目的】 豊玉地域の関係機関間のネットワークに基づいた地域包括ケアシステムの確立</p>	<p>・「地域包括支援センターの役割を知ることができた。」「民生委員との交流の機会が少ないので、直接お話を聞く事が出来て良かった。」などの意見があった。</p> <p>・男性のひとり暮らしの方への関わりについてグループワークを行い、まず地域包括支援センターに相談という言葉を多く聞き、このような会議や地域サロンなど、顔の見える関係づくりの重要性が再認識できた。</p>
中村橋	H31.2.7	民生委員、地域包括支援センター運営協議会委員、見守り訪問員、介護サービス事業所、コンビニエンスストア、薬局、東京大学(コンビニ協働プロジェクト)	35人	<p>【テーマ】 高齢者にやさしい街づくり</p> <p>【目的】 地域の高齢者が安心して生活できるよう、N-impro（ニンプロ）を活用した認知症理解の普及啓発を図る。</p>	<p>・「N-impro（ニンプロ）の体験は、他者の考え方ががとても参考になった。」「普段高齢者の見守りについて、ケアマネジャーが民生委員と話す機会がないため、今回のように話せる機会があり良かった。」などの意見があった。</p> <p>・今後も多くの対象者にN-impro（ニンプロ）の取り組み実施してほしいとの意見が多かった。</p>